



京都市男女共同参画センター
ウィングス京都からのお知らせ



図書情報室の御案内

ウィングス京都図書情報室は、男女共同参画社会の実現を応援する図書室で、どなたでも気軽に御利用いただけます。

図書、雑誌、ビデオ、DVD、コミック、行政資料、ミニコミなどの資料の閲覧、貸出、リファレンスサービスなど、あなたの情報力をサポートします。絵本、児童書コーナーもあります。

※本を借りるには、住所・氏名を確認できるもの(運転免許証・健康保険証など)をカウンターにお持ちください。利用者カードを発行します。(京都市内に在住、在勤、在学の方)

利用時間 ◆平日 10:30~20:30 ◆日・祝日 10:30~17:00(水曜日、年末年始、特別整理期間は休室)

お問合せ 図書情報室 ☎075-212-0606



相談室の御案内

開室時間 ◆平日 11:00~18:30 ◆火曜日 11:00~20:00 *受付は閉室の30分前まで

休室日 ◆水曜日・日曜日・祝日・年末年始 専用電話 ☎075-212-7830

- ◇女性のさまざまな悩みに関する電話相談/面接相談(予約制)
- ◇女性への暴力相談 (予約制)
- ◇法律相談 第1・第3 金曜日 13:30~16:00(祝日の場合 第2・第4金曜日)(予約制)
- ◇男性のための相談 第1・第3 火曜日 17:00~20:00/土曜日 15:00~18:00 (予約制)



男女共同参画苦情・要望等処理制度

「性別による人権侵害」「男女共同参画の推進に関する京都市の施策」についての苦情・相談を受け付けています。

専用電話 ☎075-222-8124

男女共同参画通信

Aug.2012
©Kyoto City

Vol. 32

「メディア・リテラシー」と女性の参画

職種別男女の内訳(放送関連)

25.9

<発行>

京都市文化市民局 共同参画社会推進部男女共同参画推進課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺町 488
TEL : 075-222-3091 FAX : 075-222-3223
http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-1-2-0-0_1.html

<企画・編集>

公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262
TEL : 075-212-7490 FAX : 075-212-7460
<http://www.wings-kyoto.jp>



25.9%

職種別男女の内訳(放送関連)

内閣府男女共同参画局「メディアにおける女性の参画に関する調査報告書」(2011年)より

「メディア・リテラシー」と女性の参画

テレビや新聞、雑誌など、メディアからは日々大量のメッセージが発信されています。これらの多くの情報を、私たちはどうやって選び取っていけばよいのでしょうか。

「メディア・リテラシー」という言葉をご存じですか。リテラシーとは「読み書きする能力」のこと。つまり、メディアの読み書きです。メディアが発信する情報を、ただ鵜呑みにするのではなく、見えな部分まで含めてクリティカル(批判的)に読み解き、さらには媒体に対して受け取った側の声を伝えるなど、能動的にメディアと関わる能力を指して言います。

世の中に溢れるさまざまなニュースや情報。臨場感あふれる映像やインタビュー記事。でも、それらは膨大な事実の中の、切り取られた一部分にすぎないのです。はたして、これらの情報は、必ずしも現実をそのまま伝えてくれるとは限らないと思いませんか。同じ日の違う新聞を読み比べてみるのも面白い研究です。同じ

ニュースでも、新聞によって取り上げ方や論調が異なることを実感される方もおられることでしょう。また、同じ文字媒体でも、新聞と雑誌では編集の仕方も異なりますね。テレビやインターネットなら音声や映像が表現方法に加わります。このほか私たちがメディアから受け取る情報には、ドラマやコマーシャル、自治体の発行物、街中のポスターや看板まで、さまざまなものがあります。

ドラマやコマーシャルの中で、女性・男性ということがどう扱われているかを注視しても、「男性は一家の大黒柱」「女性は子育てや家事をしている」などの固定的な性別役割分担を描いていることや、性的商品化(その性的側面のみを強調し、性的対象物として扱う行為)などが多く見受けられます。これらのメディアから発信されるジェンダー(社会的・文化的に作られた性差)を、視聴者は無意識のうちに自分の中に取り込んでしまっています。大人だけに限らず、子どもたちもメ

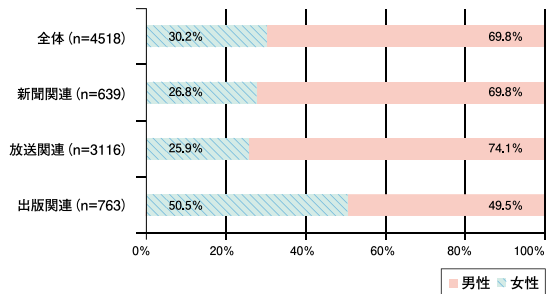
ディアからたくさんメッセージを受け取っています。

インターネットまで含めると、これらの情報を選び取る力、見極める力が大切なのがおわかりいただけるのではないのでしょうか。受け手である私たちが、メディアの特徴を視野に入れ、メディア・リテラシーの能力を高めることが重要です。子どもの頃からリテラシー能力を養えるよう、周りの大人も意識を高めていきたいですね。

そしてもう一つ、重要なことがあります。これからは、発信する側であるメディア業界にも、多くの女性が進出し、現場に参画することが大切になっていくでしょう。もちろん、メディア側の男女共同参画の視点への理解や協力も欠かせません。内閣府男女共同参画局「メディアにおける女性の参画に関する調査報告書」(2011年)によると、新聞・放送・出版業界に働く女性の比率を職種別にみたとき、放送関連業界が一番少なく25.9%、業界全体を通して、30.2%と なっています。男性社会と言われていたメディア業界にも徐々に女性の進出は進

んでいますが、同調査によると、女性の配属先は経理等の管理部門の割合が多いという結果も見られます。多くの女性が制作現場に配属されたり、また管理職に任用され、活躍することが期待されます。

職種別男女の内訳



内閣府男女共同参画局「メディアにおける女性の参画に関する調査報告書」(2011年)より